

平成十七年度(二〇〇五年度)活動報告

(I) 懇話会、研究会、ワークショップ

懇話会

第一回 平成十七年四月二十七日

報告者 馬淵 仁(大阪学院大学教授)

論 題 「多文化主義の捉えなおしー英語

圏・オーストラリアの試行錯誤に学  
ぶことー」

第二回 平成十七年五月二十一日

統一テーマ 「帝国Vの時代における非暴力

の可能性

報告者 寺島俊穂(関西大学法学部教授)

論 題 「日本国憲法と非暴力の可能性」

報告者 君島東彦(立命館大学国際関係学部  
教授)

論 題 「人道的危機への非暴力的介入ー日

本国憲法とNGOー」

第三回 平成十七年六月四日

報告者 中西久枝(名古屋大学大学院国際開

発研究科教授)

論 題 「九・一一事件と中東イスラーム世

界」

第四回 平成十七年六月十八日

統一テーマ 倫理学の可能性

報告者 神崎宣次(京都大学大学院文学研

究科(COE))

論 題 「予防原則の三つの不明瞭さ」

報告者 佐々木拓(日本学術振興会特別研究  
員(慶応義塾大学商学部))

論 題 「責任に関する言い訳アプローチ・

自由意志の場合」

第五回 平成十七年九月十六日(IVR日本支

部共催、愛知法理研究会後援)

報告者 ウルフリット・ノイマン(フラン  
クフルト大学法学部教授)

論 題 「人間の尊厳の原理」

コメントとして以下の5名が参加報告  
した。

高橋広次 「ノイマン教授「人間の尊厳とい

う原理」への一コメント」

井川昭弘 「ノイマン先生ご報告に対するコ  
メント」

平田丈人 「科学的合理性と社会的合理性の  
間に立つ人間の尊厳」

山田 秀 「人間の尊厳についての自然法論  
的考察」

西野基継 「人間の尊厳と人間の生命」

小泉信三賞受賞記念祝賀懇話会

平成十七年九月二十九日

報告者 福岡佐織(南山高等学校女子部3年)

論 題 「在宅介護だから出来たこと、在宅

介護でも出来なかったこと」

コメント

北川喜己(名古屋掖済会病院救命救

急センター長・救急科部長・外科部長)

第六回 平成十八年一月十四日

報告者 高浦康有(名古屋商科大学総合経営

学部助教授)

論 題 「企業とNPOの協働と倫理ー対等

な関係性の構築に向けてー」

研究会

第一回 平成十七年六月十七日

報告者 深井慈子(南山大学総合政策学部  
教授)

論 題 「地球益外交ー持続可能な世界の構

築をめざす立場から日本の対外政策

を考える」

ワークショップ

平成十七年九月十二〜十五日(ラトロップ大

学社会科学部、南山大学アジア太平洋研究セ  
ンターとの共催)

日豪合同ワークショップ「九・一一事件以降

の世界における公平と平和を求めてー日本と  
オーストラリアのためのオルターナティブを  
構想して」

提題者(五十音順) ..

ジョセフ・カミレリ (ラトロップ大学)

川崎 哲 (ピースボート)

マイケル・シーゲル (南山大学)

竹中千春 (明治学院大学)

リチャード・タンター

(ノーチラス・インスティテュート)

羽後静子 (中部大学)

マイケル・ハメルグリーン

(ヴァクトリア大学)

ムスタファ・カマル・バシヤ (アメリカン大学)

ニック・ビズリー (デューキン大学)

深井慈子 (南山大学)

アラン・ペイシエンス

(パプアニューギニア大学)

デズモンド・ボール

(オーストラリア国立大学)

チャンドラ・ムザファ (JUST、国際NGO)

山口二郎 (北海道大学)

山田哲也 (椋山学園大学)

## (2) 出版物の刊行

名 称 『社会と倫理』第十八号

発行日 平成十七年七月三十日

名 称 マイケル・シーゲル『憲法第九条

に関する一考察―日豪合同ワーク

ショップ (二〇〇五・九・一二―

一五)の討論を受けて―』

発行日 平成十七年二月二日

名 称 ミカリス・マイケル、ラリー・マ

シャル、マイケル・シーゲル『アジ

ア太平洋の安全保障―九・一一事件

以降』

発行日 平成十七年三月二十日

名 称 Michael T. Seigel, "Some

Considerations Regarding Article 9 of

the Japanese Constitution"

発行日 平成十七年二月二十八日

名 称 Michalis S. Michael & Larry Marshall

(ed.), Securing the Region Post-

September 11, La Trobe University

2005.

\*本書は社会倫理研究所の事業費か

らの出資によって、社会倫理研究所

「公正と平和」プロジェクトの一環

として印刷されたものである。

## 二〇〇五年度を振り返って

研究所長の交代、ほか人事

二〇〇五年三月末日付の小林傳司所長の退職

に伴い、澤木勝茂新所長に交代した。

尚、小林傳司氏には、非常勤研究員として今

後も研究所の活動に対して側面からご援助いた

だけることとなった。

又、昨年度学術振興会特別研究員に採用され、社会倫理研究所研究員として任用していた杉原桂太氏の本学数理情報学部への着任に伴い、同氏を第二種研究員として任用した。

ホームページ

一昨年開設したホームページの維持管理は引き続き奥田所員が担当し、懇話会、研究会の案内と記録を掲載し、また第一種研究員と第二種研究員の協力のもと、「あんな本、こんな本」という連載コーナーや概ね二箇月に一回の研究所ニューズレターも継続している。コンテンツの充実にも努力した結果、本研究所発行雑誌『社会と倫理』既刊分への問い合わせも増えている。又、その他懇話会などの案内も利用されているようである。

活動

本年度の新たな活動としては、日豪合同ワークショップ「九・一一事件以降の世界における公平と平和を求めて―日本とオーストラリアのためのオルタナティブを構想して」が九月十二〜十五日の四日間に亘って実施されたことが特筆される。本ワークショップ開催のために、研究所は周到な準備を心がけ、二箇年に亘る懇話会及び研究会を継続的に重ね、シーゲル所員

は海外との緊密な連絡に当たった。

#### 懇話会／研究会

懇話会は実質七回開催した。研究会は一回開催した。先に実質七回と書いたのは、例年の形式を踏んだ懇話会を五回、更に今年度は「I・V R神戸レクチャー」招待教授ウルフリット・ノイマン氏を迎えてのシンポジウム形式の懇話会、並びに南山高校三年生の福岡佐織さんを招いて「小泉信三賞受賞祈念祝賀懇話会」を開催したことによる。論題と報告者の詳細は前記の通り。

#### その他

ホームページの開設により、中部地区を中心に、本研究所の活動はかなり認知されるようになってきており、遠方からも、懇話会案内の日程に合わせて参加して下さる方も見られるようになった。

昨年度開設された水波文庫は、ホームページを通じての案内も功を奏して、問い合わせ及び貸し出し実績が高い。

(澤木勝茂)